

## 20 有害情報

### 指導項目の分類

心身の健康に関すること

### 対象・教科等

中学校 道徳、技術・家庭、総合的な学習の時間、特別活動など

### 指導のねらい

- (1) Web ページの中には、様々な情報があり、見たくない情報に出ってしまう可能性があることを理解させる。
- (2) 見たくない Web ページに出ってしまったときの適切な対処方法を理解させる。

### 指導の手引

- ・ 京都府教育情報ネットワーク（京都みらいネット）をはじめ、すでに学校ではフィルタリング機能によって有害情報への接続を規制しているが、完全な遮断は難しい。児童生徒が、学校以外でインターネットを利用する場合の有害サイトへの接続対策について指導する。
- ・ 児童生徒はそれぞれの発達段階において、性的なこと、暴力的なこと、反社会的なことなどさまざまなことに興味関心をもつが、それ自体が問題なのではなく、いかにコントロールするかが重要である。
- ・ 第三者機関の評価や審査を受け、特定の対象に推奨あるいは禁止されたサイトやコンテンツであることを示すクオリティラベルと呼ばれる情報には、オンラインマーク、安全安心マーク、プライバシーマーク等がある。

### フィルタリング機能

子どもにとって好ましくないインターネット上の情報を自動的に遮断する機能で、フィルタリングソフトは数千円で市販されており、また、多くのプロバイダ（インターネット接続業者）が無料又は月額数百円でフィルタリングサービスを提供している。財団法人インターネット協会では無料フィルタリングサービスを提供している。（<http://www.iajapan.org/filtering/>）

### LOM

教育情報ナショナルセンター（NICER）が、インターネット上の日本の教育用コンテンツに対し、LOM（Learning Object Metadata）という学習コンテンツ用の属性情報を付与し、NICER のサイト上で様々な検索が行えるようにしている。また、民間の検索サイトでも子ども向けの検索ページを提供しており、有害情報への接触を防いでいる。

### < 参考 >

インターネットホットライン連絡協議会 （財団法人インターネット協会）  
<http://www.iajapan.org/hotline/>



展開例	
学習活動	指導上の留意点
1 本時の学習のめあてを知る 2 ワークシートの事例を読む 3 思ったことを書いてみる 4 友達やグループで「有害情報」について話し合う 5 意見をまとめて数人が発表する 6 自分の感想や意見を書く 7 本時の学習をまとめる 8 自己評価をおこなう	( Web ページを使った体験的な学習活動を取り入れる場合は、2と3の部分活動をあてる。)  ・興味・関心を全く否定してまうのではなく、各自がそれを抑制することが大切であることに気づかせるように留意する。

発展的な学習
<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィルタリングソフトなど有害情報への接触を避ける適切な方法を理解させる。</li> <li>・インターネットを活用する中で、情報活用能力の一つとして、自分にとっての有用性を判断する力を育てるように指導する。</li> </ul>

関連項目
「Web ページの公開」、「出会い系サイト規制法」